

アンケート調査結果報告

- ・転入者調査
- ・転出者調査
- ・結婚・出産・子育てに関する意識・希望調査

平成27年8月

伊那市

調査結果のまとめ

【伊那市で生まれ育ち、これまでかかわりのある人が伊那市に帰ってこれる、帰って来たくなる。また、新たに伊那市の魅力により転入し、いつまでも伊那市で住み続けられるよう、子育て・教育環境（育）、就労の場（職）、住まい（住）の“育・職・住”の充実が求められています。】

～日本を支えるモデル地域構想～ の実現

転出した人の声

【転出者調査】

- ・伊那市へ帰りたいと思っている人は多い、子育てや教育環境、住まいの充実が求められている

転入してきた人の声

【転入者調査】

- ・転入してきた人の多くは、伊那市に転入する以前から関係がある
- ・住み続けるためには、働く場所があることが約6割

伊那市

【子育て・教育環境（育）の充実】

【就労の場（職）の提供】

【住まい（住）の確保】

“育・職・住”を充実

結婚・出産・子育て世代の声

【結婚・出産・子育て意識
・希望調査】

- ・伊那市で住み続けるために、子育てに対する経済的支援や子育て環境の充実が求められている

伊那市への思い

【帰属意識】

- ・住み続けたいと思っている人は4割半ば
- ・住み続けるためには、子育て環境がよいことが約6割



伊那市へ転入してきた人たち

【転入してきた人の多くは、伊那市に転入する以前から関係のある人が多い？】

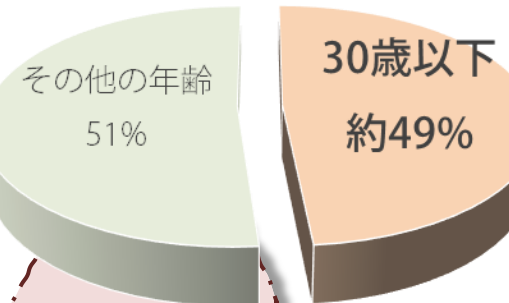


転入のきっかけは？

- ・転勤が約2割、就職（就学）、結婚のため、両親や子どもの近くに住むためが1割半ばと他より高い【転入 P13 問15】



転入者の年代

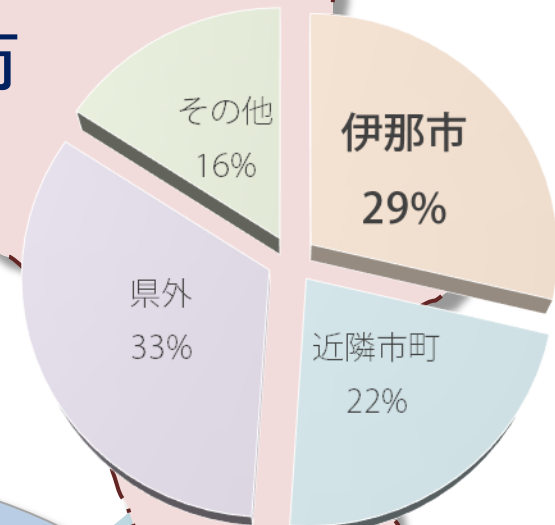


転入者のしごとは？（就労状況・環境）

- ・職業は会社員・公務員が約5割【転入 P7 問9】
- ・就業状況は、共働きが4割半ば【転入 P4 問5】
- ・共働き世帯が多いことから、世帯所得は200万～600万円未満が5割半ば【転入 P5 問6】

転入者の出身地

伊那市



転入者のマイホームは？（住まい・居住環境）

- ・転入してきた人の多くは、伊那市に転入する以前から関係がある【転入 P6 問8】
- ・転居後に持ち家（一戸建、マンション等）の人が約5割ということから、家族のもとへ戻ってきている人が多い【転入 P10 問13】

伊那市への思い（帰属意識）

- ・最初から伊那市に住もうと考えていた人が3割半ば【転入 P16 問16】
- ・住み続けるためには、働く場所があることが約6割【転入 P44 問22】
- ・伊那市が住みよいと回答した人は約7割と高い【転入 P31 問18】

転入者調査結果

性別・年齢

- ・男性の人が約4割半ば、女性の人が5割半ばで、30歳代以下が約5割と多くなっています。

出身地

- ・出身地は回答者と配偶者ともに伊那市が約3割、近隣市町村が約2割、県外が約3割となっています。

就労状況

- ・職業は会社員・公務員が約5割で、就業状況は、共働きが4割半ば、本人のみ働いている、配偶者のみ働いているが約2割となっています。
- ・共働き世帯が多いことから、世帯所得は200万～600万円未満が5割半ばとなっています。

住まいの検討

- ・伊那市に来たことがある人は約8割となっています。その内、家族・親族がいる人は約4割、過去に住んでいた人が約3割と他に比べ高くなっていることから、転入してきた人の多くは、伊那市に転入する以前から関係があることがうかがえます。
- ・最初から伊那市に住もうと考えていた人が3割半ば、伊那市内にしか住む余地がなかった人が3割半ばとなっています。
- ・住宅や地域の情報の入手は、他に比べ親族・知人からが約3割と高くなっています。
- ・転居の際に住宅を購入していない人が約8割で、その内、転居後に持ち家（一戸建、マンション等）の人が約5割ということから、家族のもとへ戻ってきている人が多いことがうかがえます。

家族構成

- ・転入前に比べ、子どものいる世帯が増加し約5割で、同居している子どもをみると、就学前（0～5歳）が約6割、小学生が約3割と子育て世帯が多いことがうかがえます。

転入のきっかけ

- ・転勤が約2割、就職（就学）、結婚のため、両親や子どもの近くに住むためが1割半ばと他より高く、ライフスタイルの変化によって転居していることがうかがえます。
- ・重視していることは、住宅条件、買い物など日常生活、治安で“重視する”が高く、居住環境について重視していることがうかがえます。一方、子育て環境、教育環境は4割とあまり重視されていないことがうかがえます。
- ・決め手となったものは、住宅条件が約6割、通勤・通学のしやすさが約5割と高く、居住環境に関する事で決め手になっていることがうかがえます。

居住環境

- ・伊那市が住みよいと回答した人は約7割と高くなっています。
- ・満足している人は約7割で、買い物など日常生活の便利さ、緑や水辺などの自然が多いが約5割と、不満が少ないことがうかがえます。

伊那市に住み続けるために

- ・転出の可能性のある人は約3割で、年齢別にみると40歳代以下で約4割と高くなっています。その理由は、仕事の都合が5割半ばとなっています。
- ・住み続けるためには、働く場所があることが約6割ということから、就労場所の確保の重要性がうかがえます。

伊那市を転出した人たち

【伊那市へ帰りたいている人は多く、
子育てや教育環境、住まいの充実が求められている】



転出のきっかけは？

- ・子育て環境、教育環境で満足が約3割と低くなっており、子育て世帯の転出に繋がっている。【転出 P13 問14】
- ・転勤が約3割、就職（就学）、両親や子どもの近くに住むためが1割半ば、住宅の理由で（広さ、間取り、家賃、住宅購入など）、結婚のためが約1割と他より高い。
【転出 P9 問12】

転出者のしごとは？（就労状況・環境）

- ・職業は会社員・公務員が6割【転出 P7 問10】
- ・就業状況は、共働きが約4割【転出 P4 問5】
- ・共働き世帯が多いことから、世帯所得は200万～600万円未満が約5割【転出 P4 問6】

転出者の年代



伊那市

転出者の居住年数



転出者のマイホームは？（住まい・居住環境）

- ・住まいを検討する際に、伊那市内に住む余地がなかった人が約5割となっています。【転出P12 問13】
- ・転出後の住まいは県外が約4割、県内が約6割でその内、近隣市町村が2割半ばとなっています。
【転出P5 問7】

伊那市への思い（帰属意識）

- ・もう一度伊那市に帰りたいたい割合は4割半ばで、18・19・20歳代で約6割と高く、就職（就学）で転出した人で伊那市へ帰りたいている人が多いことがうかがえます。
【転出 P28 問17】

転出者調査結果

性別・年齢

- ・男性の人が約4割、女性の人が約6割で、30歳代以下が約6割と多くなっています。

出身地

- ・回答者の出身地は伊那市、県外が約3割、配偶者では県外が約4割、伊那市が約1割となっています。
- ・伊那市での居住年数は10年以上が4割半ば、3年未満が2割半ばとなっています。30歳代以下の人の割合が高く、10年以上伊那市に住んでいる人が多いことから、伊那市出身の人で転出が多くなっていることがうかがえます。

就労状況

- ・職業は会社員・公務員が5割を超え、就業状況は、共働きが約4割、本人のみ働いている、配偶者のみ働いているが2割半ばとなっています。
- ・共働き世帯が多いことから、世帯所得は200万～600万円未満が約5割となっています。

住まいの検討

- ・住まいを検討する際に、伊那市内に住む余地がなかった人が約5割となっています。
- ・転出後の住まいは県外が約4割、県内が約6割でその内、近隣市町村が2割半ばとなっています。

家族構成

- ・転出後の子どものいる世帯は約4割で、同居している子どもをみると、就学前（0～5歳）が約9割、小学生が約2割と子育て世帯が多いことがうかがえます。

転出のきっかけ

- ・伊那市が住みやすかった割合は7割半ばで、どの年代も高く6割を超えています。
- ・緑や水辺などの自然で“満足”が約8割で、治安、買い物など日常生活で“満足”が約6割と高く、日常生活について満足していたことがうかがえます。一方で、子育て環境、教育環境で満足が約3割と低くなっており、子育て世帯の転出に繋がっていることがうかがえます。
- ・転勤が約3割、就職（就学）、両親や子どもの近くに住むためが1割半ば、住宅の理由で（広さ、間取り、家賃、住宅購入など）、結婚のためが約1割と他より高く、ライフスタイルの変化によって転居していることがうかがえます。

伊那市に帰りたい

- ・もう一度伊那市に帰りたい割合は4割半ばで、18・19・20歳代で約6割と高く、就職（就学）で転出した人で伊那市に帰りたいと思っている人が多いことがうかがえます。

伊那市に住んでいる人（結婚・出産・子育て）

【伊那市で住み続けるために、子育てに対する経済的支援や
子育て環境の充実が求められている】

結婚に対する希望

- ・結婚する利点があると思う人は7割半ば【結婚等 P4 問7】
- ・自分の子どもや家族をもてるが8割半ばと他に比べ高い。【結婚等 P5 問7-1】

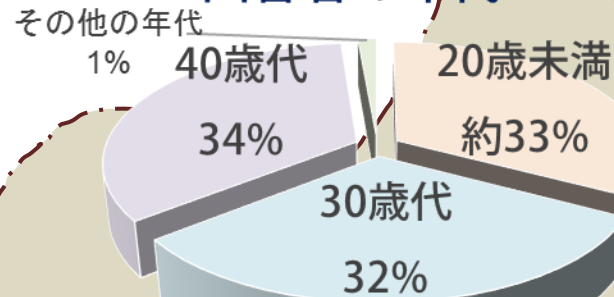
若い市民の希望

子育て支援への希望

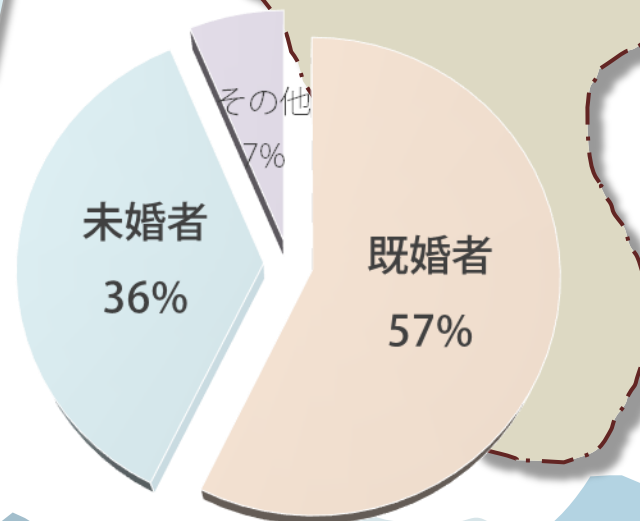
- ・理想より子どもが少ない理由は、経済的に余裕がないから約4割と他に比べ高い【結婚等 P8-9 問10】
- ・子育てに対する経済的な支援が約5割、保育サービスの充実が約4割と他に比べ高い【結婚等 P10 問11】

伊那市

回答者の年代



回答者の結婚の有無



子育て・教育環境

- ・子育てしやすいが約2割、教育環境・条件が整っているが約1割と低くなっている。【結婚等 P15 問15-1】

希望をかなえる



伊那市で住み続けるために

- ・住み続けたいと思っている人は4割半ば【結婚等 P21 問17】
- ・住み続けるためには、子育て環境がよいことが約6割【結婚等 P22 問18】

結婚・出産・子育て意識・希望調査結果

性別・年齢

- ・男性の人が3割半ば、女性の人が6割半ばで、20歳代以下が約3割、30歳代が約3割、40歳代が約3割となっています。

就労状況

- ・職業は会社・団体・公官庁などが4割半ば、パートタイム・アルバイトが約2割となっています。

結婚について

- ・結婚している人が5割半ば、結婚していない人が約4割で、結婚していない人で結婚したいと思う人は約8割となっています。
- ・結婚する利点があると思う人は7割半ばとなっています。その理由は、自分の子どもや家族をもてるが8割半ばと他に比べ高くなっていることから、子どもを望んでいる人が多いことがうかがえます。一方、ないと思う理由では、相手に自分の生活をあわせないといけなさが6割、独身の自由さや気軽さを失うが6割、仕事と家事や育児などを両立しないといけなさが6割と他に比べ高くなっていることから、自由に時間が使えなくなると考えている人が多いことがうかがえます。

子育てについて

- ・現在いる子どもの人数は2人が約4割、1人が約2割で、理想としている子どもの人数は2人が4割半ば、3人が約4割となっています。仮定出生率は1.55程度となっています。
- ・理想より子どもが少ない理由は、経済的に余裕がないからが約4割と他に比べ高くなっています。
- ・子育てをする中で必要と感じていることは、子育てに対する経済的な支援が約5割、保育サービスの充実が約4割と他に比べ高くなっています。このことから、子どもを育てるための経済的な支援の充実が重要となっています。

居住環境

- ・伊那市に住んで満足している人は7割半ばで、緑や水辺などの自然が多いが約7割、買い物など日常生活の便利さが約5割と高くなっています。一方、子育てしやすいが約2割、教育環境・条件が整っているが約1割と低くなっていることから、子どもを育てにくいと感じている人が多いことがうかがえます。

伊那市に住み続けるために

- ・転出の可能性のある人は約2割で、年齢別にみると16～19歳で約6割と高くなっています。その理由は、学校の都合が約9割となっています。このことから、進学できる大学がないことで、転出の可能性が高いことがうかがえます。
- ・住み続けたいと思っている人は4割半ばとなっています。住み続けるためには、子育て環境がよいことが約6割ということから、子育て環境の充実が重要となっています。